

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071602033		
法人名	(有)コスモピア		
事業所名	コスモピア高良内		
所在地	福岡県久留米市高良内町3919番地5		
自己評価作成日	令和2年10月15日	評価結果確定日	令和2年12月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス
所在地	福岡市南区井尻4-2-1
訪問調査日	令和2年10月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

「コスモピア高良内」は市の公園が隣接しており、静かで穏やかな環境で日常的に外気浴や散歩が無理なく楽しめます、季節の花々を眺めゆったりと過ごす事ができます、桜の季節は公園に花見の方が多く訪れます
 利用者様は、ホームで生活されるなかで、近隣で提携医のつむら診療所の津村先生との連携により健康面では安心して過ごす事ができます、開設して16年を過ぎ勤続年数が長い経験豊富な介護スタッフが多く「施設」ではなく「自宅」のような雰囲気でも過ごして頂いています。また、個別支援の視点で一人一人の希望に添えるように配慮しています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「コスモピア高良内」は平成16年に開設された2ユニット型のグループホームである。平屋建ての1ユニットずつ独立した造りで、広い敷地にそれぞれに趣のあるたたずまいをなしている。隣接した公園には春に見事な桜が満開になり、秋には紅葉し季節の移ろいを肌で感ぜられる。近隣の提携医とのきめ細やかな連携により安心して過ごす事ができている。毎年季節行事として花見、柳川のさげもんまつり、外食などを楽しんだり、よかよか介護のボランティアが事業所のイベントに参加されている。近隣に住む利用者の家族が事業所まわりの草取りを年5~6回行ってきている。今年は新型コロナウイルス感染症の影響で外出が思うようにできず、近隣を散歩したり、散歩の時に畑で仕事をしている近隣の方に挨拶をしたりと、事業所としてできることに取り組んでいる。今後も地域を支える介護事業所としての発展大いに期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「運営理念、方針、私たちの使命」を掲示し、毎朝の朝礼時に皆で唱和し仕事に取り組む姿勢を日々確認している	理念は開設時に代表が作った。「運営理念、方針、私たちの使命」を掲示し、毎朝の朝礼時に皆で唱和する。月1回のミーティング時に理念、職場の教養などについて話し合いを行い、仕事に取り組む姿勢を日々確認している。理念に向け、年度初めの4月に目標を立て、10月、3月に見直しを行なう。	開設時に作られた理念との事、理念の振り返りなどの機会を持たれてみたらどうだろうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在中止中であるが、久留米市介護福祉サービス事業者協議会「よかよか介護ボランティア」の方が週1日ほど来訪される、その時に地域の情報などを頂いている、地域の中学生の職場体験学習を受け入れている	久留米市介護福祉サービス事業者協議会「よかよか介護ボランティア」の方が訪問し利用者とマンツーマンで散歩をされる。昨年は中学校の職場体験があり、2~3人ずつ2ユニットで3日間行われた。事業所と隣接した桜の公園に保育園児が遊びに来て、にぎやかな声に癒されている。今年は新型コロナウイルス感染症の影響で思うようにできないことが多いが、職員と共に近隣を散歩したり、畑で作業している方に挨拶をするなど事業所として、できることに取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	久留米市介護福祉サービス事業者協議会と久留米市が協定を締結している「くるめ見守りネットワーク」に参加している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催案内と会議次第、議事録を全家族に配布し、運営報告を行っている、ヒヤリ・ハット、事故報告なども報告している為、ご家族から内容について、質問を受けたり、アドバイスを頂く事もある、近隣の事業所と相互参加もしており、地域の情報を共有している	運営推進会議へは利用者、家族、市担当者、包括支援センター等の出席がある。開催案内、議事録などを全家族、に配布し、報告を行う。地域包括支援センター主催の地域交流会に参加し、他の事業所の取り組みなどを参考にする。近隣の地域密着型特養の運営推進会議に相互参加し、情報を得ている。新型コロナウイルス感染症の影響で運営推進会議は30分で切り上げるようにする。今後地域密着型研修会などに、リモートで参加する予定であり現在環境整備中である。	家族の参加を増やすような取り組みとして、会議の議事録を読みやすくする。次回の運営推進会議のポイントを開催案内に書き添えるなどの工夫を試みたらどうだろうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者、包括支援センターと運営推進会議の場だけでなく、地域交流会などでも顔を合わせる為、疑問点など積極的に相談して協力をうけている、包括支援センターからは、入居相談の連絡をもらう事も多い	市担当者、包括支援センターと運営推進会議の場だけでなく、地域交流会などでも顔を合わせており、積極的に相談し、協力を受けている。電話でも相談している。包括支援センターから入居の相談をもらう事も多い。11/5には市職員の専門家による感染症の研修に事業所より申し込みを行い、参加する。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、勉強会でたびたび勉強して、理解を深めている、スタッフ皆、身体拘束を行う弊害について十分理解している、身体拘束をしないケアについて年に4回、身体拘束廃止委員会を開いて身体拘束をしないケアについて話し合いをしている	外部研修、内部研修で学ぶ機会があり、年4回身体拘束廃止委員会を開いている。ユニット毎のミーティングで不適切なケアが行われていないか、リーダーの司会により、話し合いを行う。「虐待の目、チェックリスト」によるアンケートを職員間で定期的に行う。5年前には、入居者が独りで近隣を一回りして隣のユニットにもどっていた事があった。「くるめ見守りネットワーク」に参加し、近隣からの通報の協力もある。	

R2.10自己外部評価表(コスモピア高良内)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修、内部研修で学ぶ機会がある、事業所内で不適切なケアが行われていないかどうか毎月のユニットごとのミーティングで確認している、アンケートも定期的に行い不適切なケアが行われていないか確認している		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業は、実際利用されている方が2名いる為職員もよく理解している。成年後見制度を利用している方は以前はいたが、現在はいないが、勉強会で理解に努めている	日常生活自立支援事業は社会福祉協議会を利用している方が2名おり、職員もよく理解している。成年後見制度利用の希望がある時は導入部分を説明し、実際の利用につなげる。パンフレットも用意してある。過去に生活保護の方の制度利用について役所に相談し、制度を利用し事業所で最後まで看取られた方もいる。職員も一般的な知識を理解しており、権利擁護に関しても学習し勉強会で理解に努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書締結時は、事前に書類を読んで来てもらい契約時十分な説明を行う、また疑問点を尋ねている、改定時は速やかに文書を渡し説明し同意を得ている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営状況は、運営推進会議の次第と議事録を全家族に郵送、又は、手渡ししており、面会時に意見要望を聞いたりしている、毎月担当のスタッフが家族に状況報告を兼ねた手紙を書き送っている	運営推進会議の次第、議事録を全家族に郵送または手渡ししている。面会時に家族からの意見を聞く事も多い。担当者は利用者を1~2名受け持っており、毎月家族に状況報告を兼ねた手紙を送り、写真を送ることもある。職員の対応についてのアンケートを年1回取っており、それらを運営に反映させている。新型コロナウイルス感染症の影響で、家族と利用者の面会はマスクを使用し、短時間にしてもらっている。利用者の身体状況の様子は家族に電話をすることもある。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎年、アンケートや自己評価表などで意見を伝えてもらうようにしている、それを基に、代表者、管理者との個別面談を行い職員の意見、提案、要望を聞いている	ミーティング時には意見を出し合っている。個別目標を立て自己評価については代表者、管理者との個別面談時に話し合い、意見、提案、要望などを聞いてもらう。シフトの希望にも相談に乗ってもらい、研修などに行く時も仕事として行き、内部研修に落とす。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	アンケートや自己評価表、ストレスチェック表などを記入してもらい職場環境・条件の整備に努めている、代表者との個人面談を設けるなど意見を伝える機会がある		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用は、人柄ややる気を重視している年齢や性別による差別はしていない、職員は働くなかで、得意分野を生かして生き生きと働けるよう配置などに配慮している	年齢は40歳代から70歳代まで幅広く、お互いに能力、経験を生かし生き生きと勤務している。ストレスチェック表などに基づき、職場環境等について話し合う。調理はユニット間で主食、副食と分け、得意な人にアドバイスをもらい交代で行う。休憩時間、休憩スペースも確保されており、職員は弁当を持参し、近隣の方より差し入れ等もある。歌、踊り、季節の製作品、飾りつけなど得意な分野を生かし活躍している。	

R2.10自己外部評価表(コスモピア高良内)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修、内部研修で学ぶ機会がある、利用者様の尊厳については、認知症ケアの原点でもあり、繰り返し勉強会で学んでいる	代表がプロジェクター画面で内部研修を行い、職員はそれぞれ感想文を書いた。プライバシー保護、身体拘束排除、虐待防止に関する研修など内部研修を行っている。家事、散歩、外出など個別に行っており、それぞれ力を生かした役割をもってもらい、本人の意思で電話をしたり、年賀状を書くなどの手伝いをしている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくこと	外部研修に積極的に参加できるように案内をしたり、シフトを配慮したりしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター主催の地域交流会議に積極的に参加し他の事業所の取り組みなどをきき、参考にしている		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には、出来る限り、こちらから出向き入所前の環境を確認させてもらい、直接本人と面会し、要望を聴いている又、できるだけ本人にホームにも見学にきてもらっている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方とは、事前に十分にお話を伺う時間を設け、困り事、不安、要望を丁寧に聴いている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	場合により、他のサービスを紹介したり、久留米市が発行している「高齢者支援パンフレット」をみてもらい説明したりしている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に(家事)仕事をしたり、マンツーマンで散歩したり、外気浴、外出を共にする時間を多く持つようにしている、できるだけ、本人の希望に添えるように支援している		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、日頃のご様子を伝えたり、ケアについて相談したり協力をお願いしたりしている、本人と家族の絆を大切に要望に答えている		

R2.10自己外部評価表(コスモピア高良内)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室や、お店へ一緒に出かけたり、お寺へお参りに同行したり、知人や家族へ電話をかけた、年賀状を出したりするお手伝いをしている、知人、友人の訪問もある、在宅時のケアマネジャーに訪ねてきてもらう事もある	近隣からの入居者も多く家族の支援で美容院に行く方もいる。在宅時のケアマネジャーの訪問もある。誕生日には利用者、職員と4人で外でお祝いの食事をした。帰宅願望のある方は家まで一緒に行き、鍵を確認し、一緒に帰ってきたこともある。新型コロナウイルス感染症の影響で、外出は思うようにできないが、音楽の勉強をされた方が、歌声を聞かせてくれたり、謡の先生が時々思い出されたように急に謡を唱う事がある。本人が大切にしてきた事や馴染みの人、場所との関係を大事にしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話が合う方同士で食事が出来る様、食事の場所を配慮したり、レクレーションなども座席などを配慮している		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お亡くなりになられた方の家にお参りに行ったり、家族のご様子を訪ねたりしている、退所後の家族がホームにみえる事もある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時、「らしさシート」を記入してもらい、暮らし方、意向の把握に努めている	入居時は自宅に訪問したり、事業所に来てもらう。病院、小規模多機能施設より入居される方もいる。入居時には「らしさノート」に記入してもらい、思いや、暮らし方の希望、意向、家族との関係性などの把握に努める。初回のアセスメントは計画作成者が行う。情報は職員間で共有している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	「らしさシート」にて、生活歴、馴染みの暮らし方生活環境、家族との関係性などの把握に努めている、入居時には、以前の情報を頂き事前にスタッフ皆で把握している		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方の希望は本人と職員皆で把握している、心身状態、有する力について介護記録に記録しケアプラン作成時アセスメントしている、月1回のミーティングで個別カンファレンスを行い確認し合っている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は各担当、ユニットで課題を吸い上げ看護師、医師、ケアマネ、ユニットリーダー、本人、家族と意見を出し合い作成している、月1回の個別カンファレンスでも意見を吸い上げている	介護計画は毎月のミーティングで個別カンファレンスを行い、担当者、職員などの意見を吸い上げ、本人、家族、必要な関係者と話し合い、計画作成者が作っている。プランの短期目標を参照しながら介護記録を取っており、職員間でプランの共有につなげている。計画作成者、担当者がモニタリングを行い変化を見逃さず、利用者家族の意向、満足度、目標達成状況を踏まえ、半年ごとの見直しを行ない主治医や関係者の意見を聞きながら担当者会議を開催する。	プランの短期目標を参照しながら介護記録を取っており、職員間でのプランの共有につなげているが、プランと介護記録が同時にみられるように介護記録の上部にプランを書き入れられたり、プランを表紙の裏に貼り付けるなど、すぐに見られるように工夫されてみたら、よりプランの共有につながるのではないだろうか。

R2.10自己外部評価表(コスモピア高良内)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や申し送り簿を活用し日々の情報の共有に努めている月1回のミーティングにおいて担当スタッフがそれらの記録を確認し現状報告を行う事で介護計画の見直しに繋がっている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特養のイベントに参加したり、休日のスタッフが応援で買い物支援や誕生日と一緒に外出に行く事もある		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族と外出、ドライブ、買い物、食事に行かれる方もいる、よかよか介護ボランティアの方とマンツーマンで散歩に行かれる方もいる		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医のつむら診療所の先生の支援のもと、家族へ、連絡、報告、相談は迅速に行っている、家族が遠方の方には、直接電話にて説明をして下さるか、往診時以外でも先生の方からホームに説明に向いて下さる事もある。専門医への紹介状も迅速に頂き迅速に受診につなげている	提携医の近隣の診療所の医師とは緊密に連絡を取り、医師の支援のもと安心して過ごしている。訪問診療時には、事業所の看護師が毎回立ち会っている。看護師は週4回午前中勤務で、何かあった時は電話にて連絡ができる。他科受診時は医師から医師に報告がある。職員が家族から聞き取り、医師にお知らせする事もある。居宅療養管理指導にて、薬剤師より指導を受け、各個人の薬について基礎疾患とあわせて理解している。症状の変化はその都度看護師に伝えている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化や気づきはその都度看護師につたえ、定期往診時に、介護職と共に医師へ伝えていく、又心配な時はオンコールで看護師が駆けつけて対応している		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、家族と病院の連携室と連携をとり、情報提供を速やかに行っている、面会にも出向いている。退院時カンファレンスにも参加する場合もある。病院連携室から入居相談も多い		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、看取り支援について話をしていく。医師から看取り時期についての方針を確認された時に家族に改めてお話ししている、方針が決まったら看取りプランを作成し、皆で共有し看取り体制をとっている、毎年看取りケア研修に参加している、つむら先生の献身的な往診が皆の支えとなり、経験を積んでいる、地域の関係者の介入は今まではない	入居時に、看取り支援について話をしていく。年1~2回看取りの支援を行っている。今年も6月に事業所で看取りにより逝かれた方がいた。看取りの指針もある。代表により内部研修が行われ又職員が外部研修に行き内部研修に落としている。看取りが近づいてきたら医師が家族に説明する。医師からは、家族に医院の方へ相談にきてもよいとの申し出がある。医師の利用者への対応から、職員皆の心の支え、勇気となり共にチームで支援に取り組んでいる。緊急時の連絡も施設長から家族へ、看護師から医師へ連絡するようになっている。	

R2.10自己外部評価表(コスモピア高良内)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一年に1回は救急時の対応についての研修を消防隊員に習っている実技も交えて習っている今後も繰り返し続けていく必要性を感じている		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回火災時の総合避難訓練を行っている。夜間想定での訓練も行っている	年2回、1回は夜間想定で、地震、火事、台風などの訓練を行った。昨年は消防署にも立ち会ってもらった。避難場所は小学校になっている。備品として水、カップラーメン、ガスコンロなど3日分保管している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を守るケアについて、繰り返し勉強を行っている、プライバシー保護についての勉強会も毎年行ない、丁寧な言葉遣いを皆で心がけている	年1回はプライバシー保護の取り組みに関する内部研修を行い、折に触れ勉強会も行っている。言葉遣いに気を配り、気が付いた時には施設長が注意をしている。本人が思いや希望などを表した時には、その都度希望を聞き支援を行っている。買い物したいとの要望があり、スーパーマーケットに行った。	写真などの利用も含め、個人情報利用の際の同意書を撮られてみたらどうだろうか。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その都度希望を聞き支援している		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の過ごし方の希望を本人、家族に聞いてできるだけ、自由に過ごしていただけるように配慮している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服は自分で選んで着てもらっている、散髪は、2ヶ月に一回ホームでできるが、家族といきつけの美容室に行かれる方もいる、希望の美容室にお連れする事もある		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、希望を聞きながら、職員が作成し、買い物と一緒に出かけたり、下ごしらえ、片付けも一緒に行っている、サンドイッチ作り、おはぎ作りでは、毎回喜んで参加されている、誕生日月に職員と利用者様4人で、外食へ出かけたり、花見の時は手作りのお弁当をホームの中庭で皆で食べる	献立は利用者に好みを聞き、2週間単位で職員が立てる。麺類、パンが食べたいなどの要望があり、2週間に1回は献立にいれる。サンドイッチのパンにバターをぬったり、卵を挟んだりと楽しく、職員と一緒に作っている。今までは利用者と一緒に買い物に行っていたが、今は新型コロナウイルス感染症の影響で、施設長が買い物に行ったり、材料を発注する。調理の得意な職員がおり、アドバイスを受けながら、手の込んだ彩の良い手料理が提供されている。花見の時は手づくりのお弁当を事業所の中庭で、皆でたべる。	

R2.10自己外部評価表(コスモピア高良内)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師と相談し、食事量、栄養、水分量の個別対応、状態把握をしている、食習慣など家族、本人から聞いて対応している		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回訪問歯科より、口腔ケアを受ける事ができる、その指導のもと毎食後職員が個別にケアを行う、食事前に「お口の体操」を皆で行い、誤嚥性肺炎の予防をしている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけ、トイレで排泄できるよう支援している、各個人の排泄パターンを、排泄チェック表に記載して把握している	各個人の排泄チェック表にて排泄の時間帯、回数などを把握している。職員間で話し合い、トイレに誘導、声かけなどを行いリハビリパンツとパッド使用からリハビリパンツになった方や、リハビリパンツから布パンツになられた方もいる。自立している方は見守る対応をしている。不安定で安定剤を服用していた方が、見守りにより精神状態、歩行状態も安定し、改善されたケースもある。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の食事量、水分量を把握し散歩や体操を促し予防に努めている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴日と時間帯は事業所側で決めているが、入浴を楽しめるように本人の希望を聞いて一人で入りたい人は一人で、手伝いをしてほしくない人はさりげなく脱衣所で待機するなど個別に対応している	入浴時間は昼過ぎから夕方まで、冬は週2回、夏は週3回である。個浴で、家庭用サイズと広めの浴室があり、二人介助で入浴する時もある。一人で入浴される方もあり、気をつけている。入浴拒否がある時は、仲の良い人に誘ってもらう。シャンプー、リンスなど好きな物を使用する。乾燥肌の人には塗布する。入浴時に皮膚観察をする事で、帯状発疹を見つけすぐに医師に処置してもらった。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の希望、状況により休息、睡眠がとれるようにしている、夜間も希望の時間で就寝して頂いている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養管理指導をうけており、直接薬剤師より、指導を受け各個人の薬について基礎疾患と合わせて理解している、症状の変化は其の都度看護師に伝え往診時に的確に伝えている		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事(洗濯物、買い物、食器の片付け)、散歩、外食などを個別に行っている、役割を持って自発的に行われる方もいる		

R2.10自己外部評価表(コスモピア高良内)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	レクリエーションで柳川市のさげもんめぐり、足湯、石橋文化センターのバラ園、などに出かける時もある、散歩は希望を聞いて周りの公園と一緒にいる、家族が連れて行かれる時もある。外食、買物、美容室、お寺へのお参りを職員が支援したり、家族が支援したりしている	年間のレクリエーション計画表があり事業所の車2台でバラ鑑賞、さげもんまつりではボランティアの方が弁当を作ってくれた。家族と一緒に買い物、美容院などに行く時もある。事業所まわりは自然に恵まれ、職員と一緒に散歩に行く。事業所前の公園には大きな桜の木があり、葉が紅葉し、季節の移ろいを感じられ、天気の良い時は陽だまりでくつろぎ、夕方には大きな陽の落ちるのを見る。自然と共に優しい、穏やかな日々を過ごしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持つ事で安心される事は理解しており、職員皆共有して認識している、お財布を自己管理している方は現在1名		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の意思で、電話をしたり、年賀状を書いたりされるお手伝いをしている		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節が感じられるような飾りつけや、花を飾ったりしている、音楽やテレビなどの音は好まれない方には迷惑とならない様に配慮している	ユニットにより造りが若干異なり「すすらん」は天井が高く天窓があり開放的で採光も良い。「たんぼぼ」は床が木目調でしっとり優しい雰囲気がある。2ユニット共ホールを中心に居室が配置され、あ全体がよく見渡せる。飾りつけもそれぞれ特色が出ており、ハローウィン、お月見、クリスマス等、目を見張るような斬新な色合いの飾り物に、思わず見入ってしまう。得意な職員が利用者と一緒に作ったとの事。建物回りも自然に彩られ、季節の野菜の実りを見たり、落ちる夕日を見て一日の終わりを感している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人や2~3人で掛けられるソファをとこころに置き、時には、職員がそこで1対1で下肢のマッサージを行ったり、ゆっくり心配事の相談を聴いたりしている		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、家具や寝具など自宅から持ってきてもらい、家族の写真などを飾って居心地よい空間づくりをしている、テレビや仏壇など個々の過ごし方の希望が反映されている	居室にベッド、カーテン、エアコンなどが設備されている。入居時にテーブル、整理ダンス、仏壇などを持参している。家族の写真に囲まれ、穏やかな気持ちで過ごしている。歩行状態が思わしくない方の部屋には、医師の指示で、動線に足形を張り、歩きやすいようにしており、思いやりを感じる。謡の本を持参し、急に謡いだす。合唱部にいた方がアルトで歌うなど個々の過ごし方をしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっている、手すりなど利用して移動したり、立ち上がりやすいように、ベッドの高さなど調節している		